

特集

但馬の未来をデザインする

# TAJIMA Design

## 城崎国際アートセンター 豊岡市

湯のまちを芸術文化創造の拠点に!!

# 世界から城崎へ、城崎から世界へ！ 舞台芸術の拠点として生まれ変わる



動画が見られます



4月23・24日は恒例の「温泉まつり」を開催!!



大谿川沿いの柳並木と木造3階建ての旅館。山に囲まれ、どこでも緑を感じられる城崎の風情は、訪れた者の心を落ち着かせてくれる。

### 「温泉」と「アート」の融合

歴史と文学といで湯のまち「城崎温泉」。志賀直哉を始めとする多くの文人墨客が訪れ、大谿川と柳並木、軒を連ねる木造の宿など、今なお古き良き日本の「温泉まち」の情緒を残す山陰の名湯である。

この湯のまちに、今年4月、「アート」をテーマとした施設がオープンする。その名は「城崎国際アートセンター」。旧城崎大会議館を活用し、舞台芸術を中心とした滞在型の創造活動（アーティスト・イン・レジデンス）の拠点として整備される。

「温泉」と「アート」の融合により、新たな可能性が生まれようとしているその取り組みを追った。

### 「AIR」という発想

「芸術の分野で城崎大会議館を活用できないか」。センター開設のきっかけは、中貝宗治豊岡市長の言葉から始まったと振り返るのは、豊岡市民プ



木崎の小路

外湯めぐりのお立寄りスポット

「和のにぎわい」をテーマに個性豊かな10店舗が軒を連ねる小路



多くの文人墨客に愛されたゆかたの似合うまち 城崎温泉

城崎温泉観光協会 TEL.0796-32-3663 <http://www.kinosaki-spa.gr.jp>  
宿泊案内/城崎温泉旅館協同組合 TEL.0796-32-4141 お宿とれどれ 検索

動画が見られます



昨年9月22日に行われたプレ事業「ダンサーを探せ!! in 城崎温泉」。当日は、プロダンサーと但馬から集まった「紛れダンサー」を合わせた87人が出演した。

## ■オープニングイベント「日本劇作家大会2014豊岡大会」

劇作家の他に、演劇人や映画・テレビなど異なるジャンルからもゲストを迎え、演劇作品の上演や戯曲リーディング、ワークショップ、シンポジウム、講演など多彩なプログラムが行われる劇作や舞台芸術文化の祭典。今回は9年ぶりの開催。

【期】6/12(木)~15(日)／開会式:12日(木)17:30~(城崎国際アートセンター)

【所】城崎国際アートセンター、豊岡市民プラザ、出石永楽館 他市内各所

※詳細やスケジュールについてはHPで → <http://toyooka-geki.org>

◎城崎国際アートセンター公式webサイト → <http://kiac.jp/>

ラザの館長を務める岩崎孔三さん。

豊岡市では平成24年4月に、県から城崎大会議館を譲り受けた。1千人収容のホールや宿泊設備を持つ大会議館は、元々、産業界での活用を目的に建てられたが、社会経済状況の変化により、大規模な会議の需要が少なくなると、「施設をどう使うか」という大きな行政課題を抱えていた。

連絡を受けた時、とっさに思いついたのが、「アーティスト・イン・レジデンス(AIR)」という言葉発想だったという。AIRとは、アーティストを一定期間地域に滞在させて、芸術創造活動の環境を提供する活動のこと。アーティストは日常とは異なる空間や環境、また、様々な国、地域、文化的バックグラウンドを持った人々との交流によつて、芸術創造活動のインスピレーションを得ることができると期待されている。

「日本では絵画など美術作家向けのAIR施設は数多くありますが、舞台芸術(パフォーマンス・アーツ)を主体とした施設はまだ少ないんです。大会議館の広さと城崎温泉の情緒が、舞台芸術とマッチするのではないかと思います」と、岩崎さんは話す。

半年かけて芝居づくりを行う演劇ファクトリーや、劇作家やプロダンサーによるワークショップなど、市民参加型事業を精力的に推進してきた豊岡市民プラザ。多くのアーティストとの交流が、「AIR」というアイデアを生んだと言える。

思い立てば、すぐ行動。早速、日本トップクラスのダンサーを城崎温泉に招き、反応を聞いた。その第二声は「大きい」。舞台芸術の場として打つつけの場所だと、好印象を得た。そして、何より城崎温泉の情緒が創作活動にいい影響を与えたとの声も上がった。

さらに、温泉があるということは、肉体を酷使するダンサーにとって、疲れを癒す最高の場所だという反応も。ダンサーは温泉好き?! まさに湯治場としてもアピールできるという、うれしい発見もあった。

また、市民プラザ・アートスクールの

講師を依頼している劇作家・平田オリザさんからも、「海外の演劇関係者にもアピールできる取り組み」と評価され、アートセンターのアドバイザーとして助言を受けることになった。

オープンすれば、日本最大級の舞台芸術を中心としたAIR施設となる「城崎国際アートセンター」。施設にかける熱い想いを聞くことができた。

## 城崎から世界へ発信

センターの1番の特徴は、年に1~2回、公募によってアーティストやカンパニーを招き、年間を通してアーティスト・イン・レジデンスのプログラムを行うこと。もちろん市民の一般利用も受け付けるが、公募で選ばれたアーティストは最長3ヶ月の間センターに滞在して、24時間自由に活動することができる。

その間の宿泊費やホール、スタジオの使用はすべて無料。滞在中に制作した作品を城崎で発表することももちろん、じっくりと創作活動に集中し、日本、世界中に新たな作品を送り出すための活動も支援する。

1千人収容の大ホール、6つのスタジオ、最大で28名分の宿泊設備を備える施設の評判を聞きつけ、オープン前からたくさんお問い合わせが寄せら

「いいね!」は現地だね。

水族館以上で、あること。

城崎マリンワールド

城崎温泉の歴史をたどる  
七分間の空中散歩。

温泉寺本堂のある中間駅を経由して、山頂までをつなぐ城崎温泉ロープウェイ。山頂の展望台からは「ミシュラン一つ星」の眺望を心地よい風に吹かれながら楽しむことができます。

城崎温泉ロープウェイ Tel.0796-32-2530  
始発9:10~上り最終16:50(第2・第4木曜(祝日は営業))  
大人(往復)¥880(4/1~¥900)/JR城崎温泉駅から徒歩20分  
<http://kinosaki-ropeway.jp>



城崎温泉旅館協同組合では「Kinosaki inn Concierge」と題して、外国語に対応した宿泊予約サイトも開設している。  
http://www.kinosaki-web.com/en/

城崎温泉に「アート」という魅力が加わることで、新たな客層の取り込み、世界への情報発信による観光分野への波及効果にも期待が高まる。

### 観光促進にも期待

「ここにまた、地域の人にもっと身近に「アート」を感じてほしいという狙いもある。滞在中は練習風景を一般公開したり、小中学校でワークショップを開くなど、地域とレジデンスアーティストとの交流の場を積極的に設けたいと考えている。」

トップクラスのアーティストが浴衣姿でふらつと温泉街を歩き外湯で疲れを癒す、地元のおばちゃんとは何気ない会話を…。そんな「身近にアーティストのいるまち」を目指している。

れている。

「緑が美しい温泉街の風情は、外国人にとっても落ち着く場所であるようです。アートという新たな価値と、

城崎温泉でも、約2年前から海外からの旅行者獲得に向けたインバウンド対策を行っており、アートセンター開設によって外国人旅行者が増えることはチャンスとして捉えている。」

「小規模な宿が多い城崎では、個人客をターゲットに、ネット中心の対策を行っています。団体客を狙えば、富士山や京都といった場所と勝負しないと

いけません。また、東南アジアのお客様は英語を話せる方が多いことから英語圏に絞り、戦略性を持った取り組みを行っています」とは、城崎温泉旅館協同組合理事長の高宮浩之さん。

旅館組合、観光協会、商工会が主体となり、豊岡市の過疎地域戦略プロジェクトを活用して、英語版の旅館予約システムやフェイスブックの開設、観光案内版の整備などを実施。駅前にあるお宿案内処には、城崎インフォメーションカウンターを設置して、外国人に対応できるようにした。

外湯めぐりや温泉街の歴史的な景観文化が評価され、旅行ガイド「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」の二つ星を獲得したこともあり、海外からの旅行者は着実に増加している。

「舞台芸術」の拠点として生まれ変わる「城崎国際アートセンター」。

昨年、温泉街を使つての「ダンサーを探せ!! in 城崎温泉」や、「平田オリザまちかどリーディング(朗読劇)」といったイベントを実施。「アート」は観てもらうことが一番と、今後も実際に体感してもらつて、地元の人々の理解を深めていく方針だ。

「温泉」と「アート」のコラボレーションが、どのような化学変化を起こすのか、今から楽しみでならない。

「舞台芸術」の拠点として生まれ変わる「城崎国際アートセンター」。

昨年、温泉街を使つての「ダンサーを探せ!! in 城崎温泉」や、「平田オリザまちかどリーディング(朗読劇)」といったイベントを実施。「アート」は観てもらうことが一番と、今後も実際に体感してもらつて、地元の人々の理解を深めていく方針だ。

さらに今年は、5月9日から1ヶ月間、観光協会が中心となつて、「第1回城崎温泉泊覧会(城崎オンパク)」を開催する。さらなるファン作りのため、個々の旅館や商店が体験型プログラムを考へるといふ取り組みだ。50を超える企画が上がつており、新しい魅力が発掘できるはずと期待を抱いている。

### 舞台芸術の拠点に

「舞台芸術」の拠点として生まれ変わる「城崎国際アートセンター」。

昨年、温泉街を使つての「ダンサーを探せ!! in 城崎温泉」や、「平田オリザまちかどリーディング(朗読劇)」といったイベントを実施。「アート」は観てもらうことが一番と、今後も実際に体感してもらつて、地元の人々の理解を深めていく方針だ。



ごちそうさん

http://www.futakata.co.jp

おかげさまで90年

かま ぼこ  
**蒲 二 鉾**

兵庫県豊岡市瀬戸757-1  
TEL.0796-28-3121  
9:00~17:00 土曜定休

●城崎マリンワールド  
●津居山港  
●日本海  
●気比の浜

二方蒲鉾 150

ネットショッピングもやっています。  
二方蒲鉾 検索

東日本営業部/神奈川県横浜市神奈川区神奈川本町21-6

# 元気ネットワーク

[Genki-Bito]



NOMO ベースボールクラブの  
後援活動もやっている。



個性溢れるお店が集う木屋町小路



「城崎温泉 夏物語」は毎日1千人が集  
まる夏の人気イベントになった。



城崎温泉オンセン  
ジャーとして活躍  
するメンバーも!



## ●株式会社 湯のまち城崎

「駅が玄関、通りは廊下、旅館が客室で、外湯が大浴場、お土産物店は売店」と例えられるように、温泉街を一つの大きな旅館として考える城崎温泉。「共存共栄」と呼ばれるまちづくりをこの先100年繋ぐため、設立されたのが「株式会社湯のまち城崎」。行政の財政状況が苦しい中、自分たちで資金を確保して、無駄をなくし効率的にまちづくりを行うことを目的としている。「城崎は外湯を中心として巡るまち。空き店舗対策は近々の課題です。若い人が起業できるように橋渡し役になりたい」と話すのは、宿の主人でもある事務局の芹澤正志さん。4月からはバラエティに富んだお店が集う「木屋町小路」の運営も担当。「温泉街の中心にある木屋町小路は立地条件も抜群。今後はインフォメーション機能も充実させて、観光の拠点として人が集う場所にしていきたい」と話す。また、NOMO ベースボールクラブの後援活動も担い、選手に雇用の場や練習場を提供するなど、地域活性化にも一役買っている。

【問】株式会社 湯のまち城崎 事務局 0796-32-3663



事務局の芹澤さん

## ●城崎温泉 若旦那の会

まちの若者が集い、ボランティアで城崎温泉の盛り上げ役を担う「若旦那の会」。印象的な着物の姿のポスターが話題となり、今や城崎温泉のPR部隊として欠かせない存在となっている。「元々、城崎には男衆が外に出るという文化があり、名前を若旦那と付けました」とは、代表の大西伸弥さん。メンバーは旅館や商店、お寺の後取りもいたりして、業種問わず団結できる所が城崎らしいと話す。夏の定番イベントになった「城崎温泉 夏物語」の風物詩である縁日。これを目当てに訪れる観光客も多く、お客さんと身近にふれ合えるとやりがいになっている。今後も観光客とのふれ合いをテーマにした、手作りのイベントを主体にまちの魅力を高めていきたいと話す。

◎WEB <http://www.kinosaki-wakadanna.com/>  
【問】城崎温泉観光協会 0796-32-3663



城崎温泉 若旦那の会  
代表の大西さん

「城崎温泉」を盛り上げる元気人たちを紹介



英語表記の散策マップやパンフレットも作成

フェイスブックでも情報発信

## ●城崎温泉観光協会 城崎インフォメーションカウンター

平成24年、JR城崎温泉駅にあるお宿案内処内に開設された「城崎インフォメーションカウンター」。英会話のできる事務員が常駐し、外国人観光客に対して、温泉街や豊岡市の観光案内を行っている。また、英語版フェイスブックでの情報発信やメールでの問い合わせにも対応。旅行ガイド「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」の二つ星として掲載されたことから、カウンターに訪れる外国人観光客が増えていると言う。職員の河原ひとみさんは、「案内したお客さんが帰りにサンキューと言って、わざわざお礼に立ち寄ってもらえることがうれしい」と話してくれた。

【所】豊岡市城崎町湯島78(JR城崎温泉駅前、お宿案内処内)  
【時】9～17時 【休】無休 【問】0796-29-4188



職員河原さん



文学碑めぐりを楽しむのも◎



春は桜の名所である木屋町通り

## ●観光ガイド 城崎案内人

「外湯だけではない城崎温泉の魅力を観光客に伝えたい」と始まった観光ガイド 城崎案内人。城崎芸文館を起点に、約2時間のコースをメインに案内を行っている。「お客さんの反応を見ながら、こぼれ話や裏話など興味を引きそうな内容を盛り込んでガイドをしています。どこから来られているのかといった情報も事前に調べることで、親近感を持ってもらえるように心がけています。ガイドをするようになって、1,300年の歴史あるまちだと新たに認識した」とは、ガイドの四角澄朗さん。見所は多く、いつもしゃべり足りないんだとか。「もう1回聞きたい」という人も多く、ぜひ隠れた魅力を知ってほしいと話す。また、大谿川にホテルを復活させるなど、城崎温泉町並みの会の代表も務める四角さん。平成27年6月7～9日に開かれる、「全国町並みゼミ豊岡大会」にも関わるなど、まち並みの保全に努めている。

【料】1グループ(5名まで) 2,000円  
※6～10名までは1人増えるごとに100円増し  
【問・申込】城崎温泉観光協会 0796-32-3663  
※事前予約(2週間前までに電話、FAXで申し込み)



城崎案内人の  
四角さん

但馬夢テーブル委員会は地域で暮らす、働くみんなが、その実現に向けて思いをまとめた「地域の夢」を行政と一緒に取り組み活動しています!

4月から7期がスタート!



愛する「ふるさと但馬」を  
さらに盛り上げています!



但馬夢テーブル委員会事務局 TEL.0796-26-3615 または Facebook にて「但馬夢テーブル委員会」を検索してね!